

平成 26 年度第 4 回児童福祉専門分科会会議概要

- 1 開催日時 平成 26 年 10 月 4 日（土）13：00～15：00
- 2 開催場所 青森市総合福祉センター2階 大集会室
- 3 出席委員 宮崎秀一会長、佐藤秀樹委員、長内幸雄委員、木村聖一委員、森理恵委員
- 4 欠席委員 鳴海明敏委員、道川晋司委員
- 5 事務局出席者 健康福祉部長 赤垣敏子、理事 能代谷潤治、
子どもしあわせ課長 小倉信三、副参事 西澤哲司、
浪岡事務所健康福祉課主幹 須藤裕二、
子どもしあわせ課主査 小山内孝育
- 6 その他出席者 青森市子ども会議委員 13名、子どもサポーター 1名
- 7 会議内容

【青森市子ども会議との合同会議】

- 1 開会
- 2 健康福祉部長あいさつ
- 3 自己紹介
- 4 報告
平成 26 年度青森市子ども会議のこれまでの活動等について
- 5 案件
「子どもの権利の日」のイベントについて
- 6 閉会

報告 平成 26 年度青森市子ども会議のこれまでの活動等について

事務局より資料 1 について説明

案件「子どもの権利の日」のイベントについて

事務局より資料 2 について説明

意見交換

- ①身の回りで興味のあることをテーマとした活動について
《子どもを取り巻く環境グループの説明》
- 子ども会議委員

・活動テーマとして選んだ理由

子どもを取り巻く環境の中に、いじめや体罰といった子どもの権利を脅かすものがあるのかどうかを知りたいということと、青森市を子どもがより楽しく遊べる環境にしたいと思ったから。

・これまでの活動内容

いじめや体罰、遊べる施設についての街頭アンケート、いじめ防止啓発活動のティッシュ配りをした。

・現時点で考えている提案内容

子どもの権利についての電話相談のことをもっと広く知ってもらうためにポスターなどの広報活動をして欲しいということと、アウガの中でみんなが集まって座れるようなスペースが欲しい、無料で子どもたちが遊べる施設が欲しいということ提案する予定である。

○分科会委員

調査してみてどうだったか。また、どのくらいの人にアンケートに答えてもらったのか。

○子ども会議委員

いじめについてのアンケートは、男性12人、女性11人が答えてくれた。夏休み期間中ということもあり、通行人が少なく、多くの人にアンケートをお願いすることができなかった。

いじめを受けたことはあるか、いじめを見たことはあるか、いじめをしたことはあるか、いじめを受けたら誰に相談するか、いじめの現場にいたらどうするか、いじめについてどう思うかなどについて聞いた結果、いじめを受けたことはあるかについて、「はい」と答えた人は23人中2人、いじめを見たことはあるかについて、「はい」と答えた人は6人、いじめをしたことはあるかについて「はい」と答えた人は0人だった。もしいじめを受けたら誰に相談するかについては、多かった順に友達、親、先生、電話相談でもしいじめの現場にいたらどうするかについて、「助ける」が9人、「先生に話す」が9人、「友達に話す」が6人だった。

○分科会委員

アンケート調査の対象には、大人も入っているのか。

○子ども会議委員

いじめと体罰については10代まで、遊べる施設については年齢を問わず行った。

○分科会委員

アンケートに答えてくれた人の反応についてはどうか。

○子ども会議委員

子どもはわりと 5 分くらいならいいという感じだった。自分たちが思っているよりはアンケートに応じてくれたのですごく助かった。

○分科会委員

アンケートを取ったときの反応を分析して発表してもらえれば嬉しい。

○分科会委員

教育委員会でもいじめ体罰に対する対話集会をやっているので、そのときに、アンケートに協力してもらおうということもいいかもしれない。

○分科会委員

アンケート調査の結果と提案の関係が、アンケート調査の結果からこう考えるからこういう提案をするというところが少し分かりにくいと思う。例えば電話相談ではどのような対応をしてもらおうと子どもとしては安心できるのかとか、もっと素直に話せるとかというところを提案していければよいと思う。

○分科会委員

アンケートというのは、サンプル数がもっと多くないといけないと思う。このまま出すのであれば、街頭インタビューの結果と言った方がいい気がする。

《交流グループの説明》

○子ども会議委員

・活動テーマとして選んだ理由

普段接しない他県の文化やイベントを肌で感じて交流をし、それについて新たな考えが生まれればいいと思ったから。

・これまでの活動内容

8月7日のねぶた祭りで函館名物いか踊りに参加し、また、市の担当者に青函交流について詳しく話を聞いた。

・現時点で考えている提案内容

青森市では県内、県外あらゆる人との交流がどのようにされているのか、また、どのようなことを行っていくべきなのかを知りたいということと、多くの人と交流していきたいので、そのような交流の機会があれば知らせて欲しいということを発表しようと思っている。

○分科会委員

交流というのは人と人との繋がりなので、常に相手のことも考えるという姿勢が大切である。

○分科会委員

交流するときのキーワードは違いということかもしれない。違いという中に特徴や良さがあり、自分たちは自分たちのところの良さを他県に伝え、他県の人もそこから学ぶと思う。また、他県の子どもというだけではなく、大学生はいろいろなところから来ているので、青森にいながら他県の話の聞けるのではないかと思う。

《観光グループの説明》

○子ども会議委員

・活動テーマとして選んだ理由

青森の良さを知り広めていきたいと思ったから。

・これまでの活動内容

ワ・ラッセのねぶたと工業高校のねぶた部を見学し、工業高校では、骨組みをしたり紙を貼ったりする体験をさせてもらった。また、商業高校の商業研究部を訪問し、観光プランの見学とオリジナルスイーツの試食をした。

・現時点で考えている提案内容

ワ・ラッセなどで子どもも楽しめる施設が欲しい、時間に余裕を持ったねぶた祭りの観光ツアーを考えて欲しい、市の産物を使った食品を積極的に売り出して欲しい、青森市の良さを市民にもっと知って欲しい、ということについて発表しようと思っている。

○分科会委員

商業高校の商業研究部の観光プランで、新しく目を付けたスポットはあるか。

○子ども会議委員

八甲田山での雪を使った企画や、新町の魚菜センターで自分の好きな海鮮どんぶりを作ることができるということを青森市民でも知らない人がいるので、もっと広めた方がいいと思った。

○分科会委員

スイーツはどんなものか。

○子ども会議委員

「ヒトナツノコイ」という青森の特産品であるカシスを使った饅頭で、その中に函館産

のクリームチーズなどが入っている。

○分科会委員

このような調査をしながらそれを今度はたくさんの人たちに発表していくというのはすごく大切なことだと思う。また、自分たちが見逃している青森市の魅力や名産品はないかという視点も入れてもらえると嬉しい。

《まちづくりグループの説明》

○子ども会議委員

・活動テーマとして選んだ理由

まちおこしや地域の活性化に興味を持ち、青森市を住みやすいまちにしたいと思ったから。

・これまでの活動内容

道路の危険なところの調査、写真撮影と電車やバスの利用に関するアンケートを行った。アンケートは、小中高各 2 校ずつにお願いし、現在、パワーポイントを使って集計中である。

・現時点で考えている提案内容

アンケートの結果を見ると、電車、バスの利用改善点、特に電車やバスの本数を増やして欲しいということが挙げられ、道路整備に関しては、穴が開いている道路が結構多かった。これらについて、市長や市役所の担当の人に提案する予定としている。

○分科会委員

まず道路に穴が開いているところをリサーチしたところがおもしろいと思う。その上で、それがもし補修されたり、便利になるとどんなことが出来るのかというようなところまで提案してもらえたらいいと思う。

○分科会委員

これだけを見ると市の職員が調べているのとあまり変わらないような気がする。道路に穴が開いているとどうしてだめなのか、あるいは危険だとどうしてだめなのかというようなことをもう少し子どもの目線で説明するといいと思う。

②イベントに向けたグループごとの活動について

《作品作成グループの説明》

○子ども会議委員

作品作成グループでは、イベントの横断幕、ポスター、チラシ、プログラムのデザインを作成している。デザイン案については、配布資料のとおり。また、イベントまでに、子

どもの権利普及活動を通じて感じたことの新聞と子どもの権利についてのポスター、チラシを作成する予定である。

○分科会委員

チラシに日時の記載はあるが、時間の記載がない。

○分科会委員

「子ども委員」ではなく、「子ども会議委員」というのが正式だと思う。

○分科会委員

イベント名について、「子どもの権利の日イベント」というのではなく、「子どもの権利の日の集い」とか「子どもの権利の日フォーラム」とか、その辺をもう少し工夫して柔らかい感じにしたらいいと思う。

○分科会委員

イベントのままでも鍵括弧を付けると少し違うかもしれない。

《企画運営グループの説明》

○子ども会議委員

開会后、市長と議長に挨拶してもらい、次に子どもにやさしいまちづくりに関して2つのグループが提案する。休憩を挟み、残りの2グループの提案が終わったら子どもの権利に関する劇とクイズを行う。劇とクイズの具体内容は、劇中にクイズを入れ、その後に正解の劇をする。時間は劇1本につき10分で、劇とクイズが5分程度、残りの5分で意見交換をしたいと思っている。劇は3本の予定で、学校中心の内容にしたいと思っている。劇とクイズが終わったら市長から感想をもらい閉会とする。

○分科会委員

プログラム(案)の5番と7番については、前半が「子どもを取り巻く環境」と「交流」、後半が「観光」と「まちづくり」の提案になるか。

○子ども会議委員

前半は「観光」と「子どもを取り巻く環境」グループ、後半は「交流」と「まちづくり」グループが提案する。

○分科会委員

子どもならではの視点から子どもにやさしいまちづくりが出ることを期待している。

○分科会委員

昨年もとても素敵なイベントになったと思うが、せっかく子どもが主役でやるのだから、あまり大人のかたちを踏襲しなくてもいいと思う。開会して市長の挨拶、議長の挨拶というのがあるが、今回は無理だとしても、もっと自由に楽しくやっていく感じでいいと思う。

○分科会委員

今年は AV 多機能ホールでやるので、通りかかった人もずっと入っていけるような感じになると良い。

○分科会委員

会場のレイアウトについてはどうか。

○子ども会議委員

階段を閉まって、椅子と長テーブルを置き、昨年と同じような構造にしたいと思っている。

○事務局

各グループから、市の担当へ提案したいという話があったが、昨年同様その担当部局長を出席させるということで良いか。

○子ども会議委員

経済部長、都市整備部長、交通部長、教育長に出席をお願いしたい。

○分科会委員

イベント当日は、思いきり発表して欲しい。私たち分科会委員も時間が合う限り参加したいと思う。